

全国 小・中・高 指導者研修会 報告



■1月18日～19日 大阪・大阪アカデミア

北海道から沖縄まで全国の小学生から高校生までの指導者が集まり、様々なテーマを話し合う研修会。今年も1月に大阪で開催されました。今回は「フェアプレー・マナー」「素晴らしい大会にするためには」「暴力撲滅」「シングルスの取り組み」等をテーマに熱心な話し合いが行われました。



研修会では全国の小学生から高校生までの指導者が集まり、様々なテーマを話し合った



映像を紹介しながら日本選手のシングルスの課題等を説明する神崎公宏強化委員長

2日間の日程

1日目は大川京子生涯スポーツ委員長の開会挨拶の後、まずは笠井達夫専務理事より日本ソフトテニス連盟の長期基本計画、平成26年度事業計画、ソフトテニスの現状と課題についての説明がありました。次に大川委員長より昨年の指導者研修会での意見等の紹介、井上清一環境・教育プロジェクト委員長よりフェアプレー・マナー等教育活動の取り組みについての説明が行われました。

その後、笠井専務理事より「スポーツにおける暴力の根絶に向けての諸施策について」暴力の根絶徹底のため、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、違反救済申立処理委員会を各都道府県連盟等各支部に、違反救済審査委員会を日本ソフトテニス連盟に設置し、ソフト

【日本ソフトテニス連盟参加者】

	役職	氏名
1	専務理事	笠井 達夫
2	常務理事・総務委員長	和歌浦信雄
3	常務理事・審判委員長	柳下 秋久
4	理事・生涯スポーツ委員長	大川 京子
5	理事・環境教育プロジェクト委員長	井上 清一
6	理事・強化委員長	神崎 公宏
7	理事・中体連ソフトテニス競技部長	林 昭文
8	強化委員・ナショナルチーム女子監督	田中 弘
9	参与・生涯スポーツ委員・シニア部会長	本田 茂雄
10	生涯スポーツ委員・小学生部会長	金岡 昭房
11	評議員(高体連)・生涯スポーツ委員	木下 道夫
12	小学生部会員	松口 康彦
13	小学生部会員	芝地 康幸
14	小学生部会員	廣島 義清
15	小学生部会員	国枝 俊子
16	小学生部会員	川並久美子
17	小学生部会員	中村 正広
18	小学生部会員	小西 俊博
19	小学生部会員	畠山 洋二
20	事務局次長	玉木 進
21	事務局	堀内 大
22	大阪府連副理事長	友谷 往弘

テニス愛好者からの相談を受け入れ、指導基本規程等諸規程に従った対応を図っていくことを説明しました。

休憩の後、小学校、中学校、高校の3分科会に分かれ、「フェアプレー・マナー」「素晴らしい大会にするために」「暴力撲滅」「シングルスの取り組み」等につき活発な討議を行いました。

2日目は各分科会からの討議結果の報告が行われました。報告内容については下記ご参照ください。

分科会からの報告の後、ナショナル女子の田中弘監督より昨年の東アジア競技大会女子シングルス決勝(韓国 KIM AEKYUNG 対 中国 ZHAO LEI)の映像を紹介しながら、神崎公宏強化委員長より男子シングルス準決勝(日本 長江光一 対 韓国 HAN JAEWON)の映像を紹

介しながら、日本選手のシングルスの課題等について説明を行いました。

特にシングルスの課題の中で重要なポイントとして

- ・コートカバーリングの考え方を身につける
- ・ビッグサービスに対しては相手正面へ返球し、角度をつけなくさせる
- ・フルパワーでの平均ラリー数を8本以上続けられる体力を身につける
- ・ハムストリング(大腿部の後ろの筋肉)の強化
- ・プロテニスの展開を研究する

の5点をあげ、説明しました。

最後に大川委員長が閉会の挨拶を行い、2日間にわたる指導者研修会が終了しました。

【各支部参加者】

支部	小学生指導者 氏名	中学生指導者 氏名	高校生指導者 氏名	支部	小学生指導者 氏名	中学生指導者 氏名	高校生指導者 氏名
1 北海道	冬澤 実和	庄司 浩人	早川 真司	滋賀県	田中 靖雄	黒川敏也・長谷川洋介	丸山徹・中川俊史
2 青森県		奥寺 努	貝瀬 朋也	京都府	南部 照一	原田 肇	石岡 重光
3 岩手県	内澤由理子	菊地 晃秀		大阪府	辻元 宏幸	深江 信弘	小牧 幸二
4 宮城県	鶴谷 圭二	根元 勝美	渡部 紘一	兵庫県	広岡 克己	浅田 陽一	間嶋 孝史
5 秋田県	福田 浩	渡邊 泰介	藤原 淳	奈良県	青山 裕子	松下 直示	西岡 健
6 山形県	鹿野 智博	村上 康広		和歌山県	塙路 芳基	吉川 豊	貴志 裕文
7 福島県	菊田 茂男	小笠原義徳	太田 重則	鳥取県	安達 功	山根 淳吾	高田 憲輔
8 茨城県	関山 達朗	白井健一郎	大滝 暢彦	島根県	安田 直樹	矢田 卓	加納 寛敏
9 栃木県	岡崎 裕	松岡 茂	鈴木 良孝	岡山県	眞野 朋彦	木科 孝夫	竹田 浩之
10 群馬県	石田 和久	茂野 勇	浦野 克彦	広島県	伊藤 錠	梅川 元祥	三浦 孝
11 埼玉県	佐藤 浩康	内野 正勝	今村 昌司	山口県	鶴羽 隆彦	宮川 昇	中堀 聰
12 千葉県	駒崎喜美代		吉田 昌弘	徳島県	毛利 喜信	新居 啓司	山本 尚志
13 東京都	花園 智弘	糠信 浩之	高橋 慎典	香川県	青木 昌三	富田 順一	山口 高徳
14 神奈川県	樹本 定芳	大島 史子	内田 一郎	愛媛県	渡部 伸貴	勝木 規夫	
15 山梨県	雨宮 由美	渡辺亜希彦	米山 隆	高知県	松岡みのり	網野 誠也	黒岩 哲幸
16 新潟県	小野 道康	坂井 真琴	石山 精哉	福岡県	中村 近義	龍 大介	谷 慎介
17 長野県	土屋 和博	熊井 孝志		佐賀県	川原 俊彦	有須田修治	福井 雅吏
18 富山県	近川 利行	渋谷 圭祐		長崎県	木村 明子	松井大一郎	原口 雅瑞
19 石川県	笠原 純	大路 貴之	高 行彦	熊本県		池田 完治	平山 隆久
20 福井県	竹内 正己	土田 郷平	矢納 正敏	大分県	羽田野文彦	渡邊 康司	大島 崇志
21 静岡県				宮崎県	小西 常夫	西岡 知雄	當瀬 純一
22 愛知県	宮里 康成	山口 恵	船戸 貞孝	鹿児島県	南 俊行	川東 耕次	湊 洋之
23 三重県	山下 学	池山 典行	谷川 圭	沖縄県	普天間富士子	柴田 義之	東 竜一郎
24 岐阜県							

小学生部会の内容

フェアプレーについて

- ・最近は、挨拶ができる子供とできない子の差が大きい。マナーも同様である。
- ・保護者もベンチに入って、大きな声で応援をしたり、指導者も過敏な指導が散見される。

指導者について

- ・サイドのチェンジの時のアドバイスが長すぎる。また、ベンチのマナーが悪い。
- ・コートに入るものは、すべて2級審判以上を取得した者と原則化している。
- ・ベンチコーチの認定証、2級審判・ジュニア指導員の認定証の3点の資格保持を徹底している。

応援のあり方について

- ・本部から「温かく見守ってください」「相手の子供が困る」ことを大人にお願いしている。そういう体制を作りたいと動いている。
- ・個別指導もしている。
- ・すべては、子供が未熟であることを大人が容認し見守ってやれるかどうかにかかってくると考える。
- ・勝ちにこだわりすぎると、相手のミスに大喜びしている。大人がもう一度考え直さないといけない。
- ・「小学生には手を離さず、中学生には目を離さず、高校生には心を離さず」を忘れない指導者の姿勢が大切。
- ・大人が子供たちを育てる心が大切。子供らしさも損なわない指導も大切。
- ・10年前に比べると、マナーは格段に良くなつたと感じる。

暴力撲滅について

- ・1回ではイエローカードでは無いとルールを逆手に取った方がいた。
- ・ルール無視で権利ばかりを言う保護者もいる。
- ・言葉の暴力にも気を付けないといけない。言葉できつことを言って選手が伸びるとは思わない。その加減が難しい。

シングルスについて

- ・小中学生合同のシングルス大会を作ったが、時間と費用のバランスが悪い。
- ・4年前からシングルスを取り入れた。効果として、乱打が上手になった。
- ・6年生のみのリーグ戦をやっている。6回やっている。上位と下位グループの入れ替え戦をやっている。保護者で運営をしていただいている。

その他

- ・ジュニア審判手帳にイエローカードを付けてもらいたい。
- ・小中高との縦のつながり連携が取れていない。こうした悩みが寄せられている現状への対応を検討いただきたい。

中学生部会の内容

フェアプレーとマナーについて

- ・プログラムにフェアプレー・イエローカード適用場面などを載せるなど各都道府県に工夫がなされているため、マナーの向上が見られている。ただし、駐車場やごみの持ち帰りなど今後の課題もある。保護者にも大会前に周知徹底させていただきたい。また、中学校の大会では外部指導者が問題になる場合もあることから、校長が認めるだけでなく、資格制度も検討する余地がある。フェアプレー・マナーの向上を進めていくためにも、生徒の審判技能の向上も必要であることから、指導を強化していただきたい。

暴力撲滅について

- ・昨今の社会的状況を見ても、暴力撲滅は徹底されている。今後とも体罰のみならず、言葉による暴力についても気を付けていかなければならない。

シングルスについて

- ・U-14 や都道府県対抗の選手選考で行われているが、大会としてはあまり普及していない。日程・会場・教員の服務や硬式とのかかわりから難しい現状である。

会員登録について

- ・中学校3年生になると会員登録数が減少するという問題については、3年生になってから連盟登録するメリットが少ないと考えられる。中学生は圧倒的に人数が多いため、試合に出られない生徒にその傾向がある。そこで連盟登録している生徒なら誰でも出場できる大会をつくり、連盟登録を促している都道府県もある。

選考について

- ・各都道府県とも選考方法については様々だが、事前に選考方法や内容を明確化し、公正さが保たれるよう工夫されている。

その他

- ・日連の理事の数を増やすなど、連盟に多数登録している中体連にもっと発言権をもたせていただきたい。
- ・都道府県対抗の時期を3月から2学期の時期にしていただきたい。(九州ブロックより)

(文：秋田県 渡邊泰介)

高校生部会の内容

- ・各県高体連等の通達等も含めて各県で整備していく。

フェアプレーとマナーについて

- ・監督・選手・保護者等への周知徹底をすることで改善が見られる。
- ・大分インターハイでは生徒が審判を行っていたが、ミーティングをしっかりしてイエローを出す気持ちで取り組んだ結果、良い大会になった。
- ・「あくしゅ・あいさつ・ありがとう」は、強豪校の生徒が率先して行うことでかなり普及してきた。

シングルスについて

- ・ほぼ全都道府県で実施されているが、日程・会場の確保では苦労している。
- ・もっとシングルスの魅力を選手に伝えてほしい。そのため連盟から選手を派遣していただきたり、講習会を行っていただけたとありがたい。